

SaaSのデータ保護に一言

Software as a Service (SaaS)のプロバイダーが利用者のデータをバックアップしているのに、これらのバックアップはローカル(社内)のバックアップと全く同じ機能を提供する、と多くの企業が思い込んでいる。残念ながら、これは必ずしも正しくはない。

企業はバックアップを、サーバの障害やデータの破損に対する保険と考えているが、実際にバックアップ管理者が行うリストアは、ユーザーが間違っただけで削除したり上書きしたりした単体のデータ・オブジェクトが大半だ。この手の小さなデータ破壊はしょっちゅう起こっている。たとえば、あるセールスパーソンが新規の提案書をつくるために既存の提案書を開いて、「名前を付けて保存」を押さずに「上書き保存」を押してしまい、元のファイルは上書きされてしまう。

一方、サービスプロバイダーは、アプリケーションまたはアプリケーションが稼動する基盤によって発生した問題から自分を守るためにだけバックアップをしている。

ユーザーの過誤はまた違う話だ。Gmailのユーザーが重要なメッセージを削除したら、それはGoogleがリストアすべき問題ではない。Googleは、利用者が指示したことを正確に実行してデータを削除しただけなのだ。Backupify やSpanning Backupなどの新興企業は、この問題に取り組み始めているが、一般的には、このサポートがあるSaaSアプリケーションの数は限られている。Backupify はGmailを含むGoogle AppsとSalesforceをサポートしており、Spanning Backupも同じくGoogle AppsとSalesforceをサポートしている。SaaSソリューションに移行しようと考えている企業は、それらのソリューションでユーザーが削除したデータを復旧することはできるのか、またはそれらがユーザーの期待に沿うリストアを行えるかを確認すべきである。—H.M.